

関東大震災における千葉県内の慰霊碑調査中間報告 I (船橋市・館山市・八千代市)

小藺崇明*(東京成徳大学)・秋山美咲・鮎川華歩・吉種佑香・青木源太・梅原泰地・齊藤希和(東京成徳大学学生)

§1. はじめに

「TSU 震災史研究プロジェクト」(TSU は東京成徳大学)は2016年10月発足し、メンバーは教員1人＋有志学生6人(1,2年生各3人)である。本プロジェクトは千葉県の関東大震災関連の碑を把握し、それらがいかなる歴史的背景により生まれ、残されたかを分析する。これは、現在、東日本大震災の記憶をいかに留め、継承するかが問われるなかで意義あることであろう。

事前学習では、武村雅之『関東大震災を歩く』(吉川弘文館,2012年)、東北学院大学・震災の記録プロジェクト・金菱清(ゼミナール)編『呼び覚まされる霊性の震災学』(新曜社,2016年)、千葉県安房郡編『安房震災誌』(1926年)等を読んだ。その後、下調べをして下記の日程で3市の調査を実施した。

- ①2016年12月29日・船橋市調査
- ②2017年3月28～30日・館山市調査
- ③2017年7月25日・八千代市調査

§2. 船橋市の慰霊碑

船橋市の調査では下記の碑が見つかった。

- F-1「関東大震災犠牲同胞慰霊碑」(1947年,馬込)
- F-2「法界無縁塔」(1924年,馬込)
- F-3「移送碑」(1963年,馬込)

いずれも市営の馬込霊園内にある。震災時のデマにより多数の朝鮮人が虐殺された。県内では9月4日の船橋事件が最も激しく、政府調査によれば38人の犠牲者が出た。上記の碑はそれに関する碑である。

§3. 館山市の調査

館山市の調査では下記の碑が見つかった。

- T-1「敬神風化之碑」(1937年,洲崎)
- T-2「震災復興碑改修」碑(1999年,洲崎)
- T-3「布良漁港復旧に際し満井武平君を憶ふ」碑(1927年,布良)
- T-4「小網寺西光寺合併記念」碑(1924年,出野尾)
- T-5「震災記念」碑(????年,岡田)
- T-6「安布里山源慶院再建記念碑」(1937年,安布里)
- T-7「若宮八幡社」碑(1981年,八幡)
- T-8「那古寺西之坊合併記念碑」(1925年,那古)
- T-9「復興記念碑」(1927年,正木)
- T-10 正木諏訪神社鳥居(1923年,正木)
- T-11「大正地震記念碑」(1926年,富士見)
- T-12「大震災御下賜金記念碑」(????年,沼)

その他、関連するものとして下記がある。

- T-13「震災観音堂」(????年,北条)

T-14「丈六観世音菩薩」(1928年,北条)

T-15「震災観世音」歌(1925年,北条)

T-16「震災地藏堂」(????年,北条)

T-17「反省地藏尊詠歌」(1925年,北条)

震災時、死者の多くは東京・神奈川に集中しているが、実は千葉県は両府県に次いで多く、死者数は約1,300人(全体の1%強)。犠牲者の多くは安房郡(館山市・南房総市・鴨川市・鋸南町)に集中し、死因は建物の倒潰だった。津波も生じたが犠牲者は出なかった。上記碑には漁港や寺社の復興に関するもの等あり、また被害の大きかった北条には震災観音堂がある。

§4. 八千代市調査

八千代市の調査では下記の碑が見つかった。

- Y-1「関東大震災韓国人犠牲者慰霊詩塔」(1990年,高津)
- Y-2「関東大震災朝鮮人犠牲者慰霊の碑」(1999年,高津)
- Y-3「無縁仏之墓」(1973年,大和田新田)
- Y-4「至心供養塔」(1983年,萱田)
- Y-5「無縁供養塔」(1995年,萱田)
- その他、関連するものとして下記がある。
- Y-6「普化鐘楼」(1985年,高津)
- Y-7 八千代仏教会の角塔婆(毎年,村上)

上記は朝鮮人虐殺関連のものであるが、震災直後に建てられていない。理由としてこの地域の虐殺は船橋とは異なり裁判にならず、1970年代以降市民グループの掘り起こしによって明らかになったからである。

§5. おわりに

千葉県内の関東大震災の碑に関し、これまで歴史学では主に虐殺関係の碑に重点が置かれてきた。それは虐殺問題が重視されてきたのに加え、災害の犠牲者の多くが東京・神奈川に集中しており、千葉県内はあまり重視されなかったからによる。今後、本プロジェクトでは、各碑の分析に加え南房総市の碑を調査する。



写真 震災観音堂